

社会教育と 地域づくりの 「次の一歩」を 考える

荻野 亮吾
(日本女子大学人間社会学部教育学科)
oginor@fc.jwu.ac.jp

2025年6月17日(火)
10:00~15:00
岩手県立生涯学習推進センター

令和7年度
社会教育指導員・地域づくり関係職員等研修講座

■ 本日の柱だて

- 1 地域コミュニティの直面する状況
- 2 地域のグループづくりと居場所づくり
- 3 地域コミュニティのエンパワメント
- 4 まとめ

■ 本日、皆さんと一緒に考えていきたいこと

1. 地域コミュニティの基盤に必要な資産や考え方について学ぶ。
2. 地域づくりの取組に必要な視点や支援について学ぶ。

現在の地域コミュニティでは、既存組織への所属が避けられる傾向にあります。地域に住む人をつなげるための新たな仕組みづくりが求められています。

実際に、みなさんの身近な地域で取り組めることとしてどのようなことがあるでしょうか？
参加者同士で各地域の悩みや工夫を共有しながら、**活動を**
一歩深めるアイデアを共に考えていきましょう。

■ 講師の研究の内容

生涯学習・社会教育
地域での学びとその支援
大人の学びとその支援



■ ウェルビーイングの実現に向けた生涯学習・社会教育への期待

文部科学省「第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理～全ての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支えあう生涯学習・社会教育に向けて～」

- **ウェルビーイングの実現に向けた生涯学習の役割**を示す。
 - ・ ウェルビーイング=**個人**の幸せ+**周囲の場**の良い状態。
- 「多様な価値観が共存しながら個人と集団のウェルビーイングの実現を可能にするような学びの場を目指していく環境づくり」が強調される。
 - ・ **ウェルビーイング向上の基盤となる地域コミュニティづくり**について考えてみる。

7

■ 地域社会への大きな期待

人口構造の変化

- ・ **人口減少**
- ・ **少子高齢化**
- ・ **都市部への人口集中**



人口構造に対応する
仕組みづくり

- ・ **子育て環境の充実**
- ・ **地域福祉の充実**
- ・ **地方の活性化**

社会構造の変化

- ・ **社会的セーフティネットの消失**
- ・ **新しい社会的リスク**



地域のセーフティネットを
築く試み

- ・ **地域団体の活性化**
- ・ **地域と連携した学校づくり**
- ・ **NPO等の市民組織への期待**
- ・ **行政/企業/NPO等の連携**

8

■ 地域コミュニティの基盤の変化

ソーシャル・キャピタルとは？

人と人のつながり (=社会的ネットワーク) や、人とのあいだの関係性 (=共有された規範、信頼) が重要であるという考え方のこと。

社会関係に基づく地域の資産のこと。

従来：組織・グループへの「**所属**」をもとにしたつながり
→現代社会では、関係は「**選択**」するものに変化
「**選択的関係の主流化**」 (社会学者：石田光規)

現在：所属から「**接続**」へ
人と人、人とグループをつなげる「**プラットフォーム**」
人と人がゆるやかに交わることのできる「**居場所**」

9

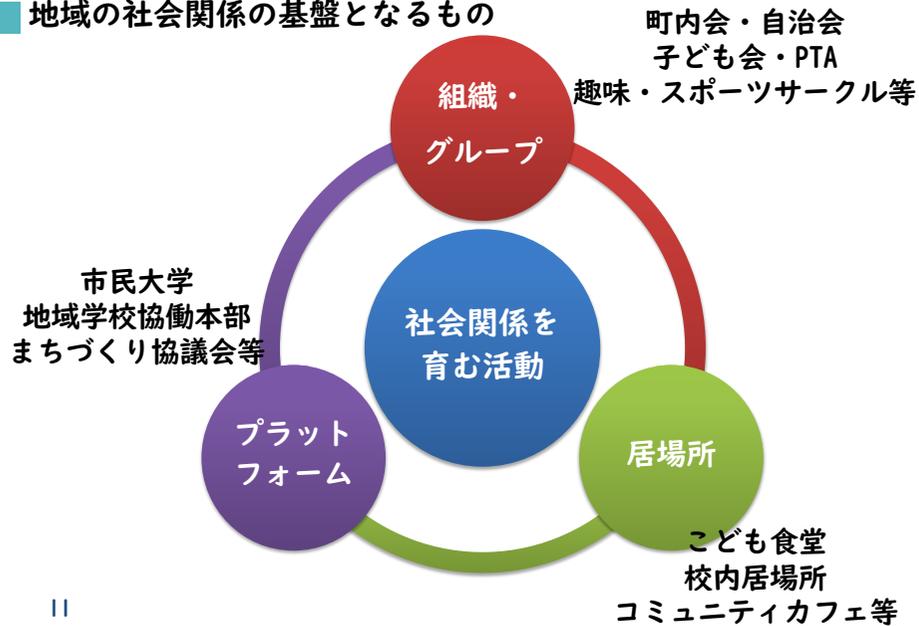
■ 地域の状況⇨既存組織からの離脱

あなたは現在、どのようなグループや団体の活動に参加していますか？

	町内会・自治会	子ども会、PTA・保護者会、子育てサークル	ボランティアのグループやNPO	スポーツ関係のグループやクラブ	趣味の会やグループ	仕事関係の会やグループ	いずれにも参加していない
男性	712 13.0%	251 4.6%	149 2.7%	496 9.0%	521 9.5%	607 11.0%	3,528 64.2%
女性	732 13.3%	606 11.0%	96 1.7%	240 4.4%	334 6.1%	416 7.5%	3,666 66.5%
合計	1,444 13.1%	857 7.8%	245 2.2%	736 6.7%	855 7.8%	1,023 9.3%	7,194 65.4%

(出典) 荻野亮吾 (2024) 「現役世代における団体・グループ活動の意味」
生協総研レポート101号『「人々のつながりの実態把握に関するアンケート調査」報告書』。

地域の社会関係の基盤となるもの



11

考えるためのヒント（例：公民館の課題例）

- ① 公民館の運営にあたって、対象となる地域をどうとらえればよいですか？
- ② 公民館は地域づくりにどう関わればよいですか？
- ③ 地域行事の中止や地域団体の解散が課題です。公民館はどう対応すればよいですか？
- ④ サークルのメンバーの高齢化や固定化が課題です。公民館としてどんな手を打つべきですか？
- ⑤ 公民館に来館しない住民もいます。未利用者に対してどう働きかければよいですか？
- ⑥ 公民館が生活・地域課題を扱うことと、自治体施策の推進啓発は、何が違うのですか？
- ⑦ オンラインを用いた事業をする必要はありますか？

13 (出典) 『ポストコロナの公民館』より一部の問いを抜粋。

ポイント① 地域のグループ づくりを進める

地域コミュニティに 働きかける方法①

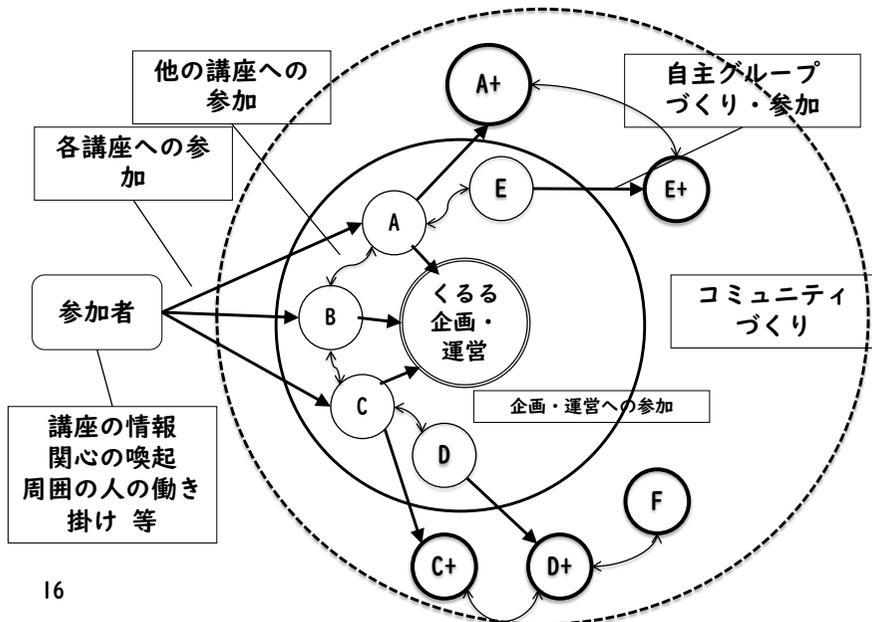
好きなことをきっかけに
地域にグループ
(最小単位のつながり)
をつくりだす

事例から学ぼう

柏市くるるセミナー（2014・2015年度）

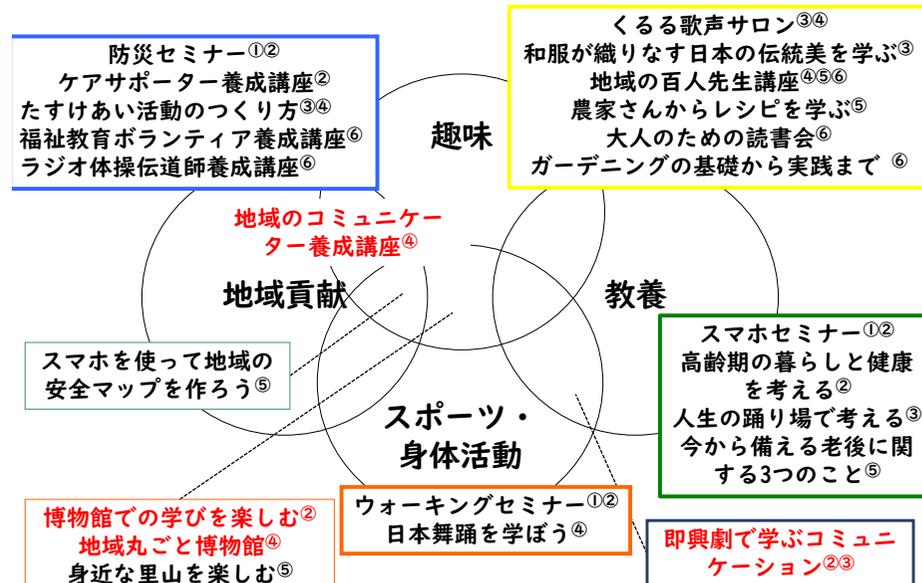
- セミナーの目的：千葉県柏市豊四季台地区において、**生涯学習を通じて、住民の方々の間につながりを作り、その後の地域での自主的なグループ活動を促す。**
- 方法：生涯学習に関わる講座をきっかけに、趣味や関心に基づくグループづくりを行う。さらにこのグループが、社会的な活動を展開できるよう支援を行う。
- 実施体制：東大高齢社会総合研究機構主催。柏市・柏市社会福祉協議会共催。
- くるるとは=**きく**、**みる**、**する**の語尾をとったもので、講座を受講するだけでなく、**自主的に活動することを促すもの。**

■ 柏市くるるセミナーの理念



16

■ 柏市くるるセミナー（2014・2015年度）



①2014年度1期、②2014年度2期、③2014年度3期、④2015年度1期、⑤2015年度2期、⑥2015年度3期。

17

■ 講座例：即興劇で学ぶコミュニケーション講座

インプロ（即興劇）の手法を用い、身体を動かしながらコミュニケーションについて学ぶ講座

回	内容
1	自分のコミュニケーションの癖を知る
2	他者とともに生み出す物語
3	表現・パフォーマンスと学び
4	舞台上立つことから得られる学び



即興劇をつくるためのゲームやワークを通して、自分たちのコミュニケーションの癖を知り、身体を使った学びを行いました。

■ 講座から活動へ：くるる即興劇団の結成



人気の高い講座のため、月2回の活動を継続し、劇団を結成するに至りました。



日本初の高齢者によるインプロ劇団として注目を集めています

■ 講座例：博物館での学びを楽しむ

博物館の楽しみ方を知り、地域での文化や歴史の再発見につなげるための講座。



1	美術館、歴史系・自然系博物館についての講義。
2	千葉県立中央博物館の見学。ボランティアの方との交流。
3	上野に集合し、グループごとに博物館、美術館見学。
4	まとめの会。各グループから見学の感想を発表。

東大、市の関係課（地域支援課、文化課）の職員と連携して実施。

■ 講座例：地域丸ごと博物館

続いて、地域の文化や博物館の楽しみ方を知り、自分たちでの活動へとつなげていくための講座を開きました。

1	博物館の楽しみ方についての講義
2	柏市内の一日散策（手賀沼の遊覧船に乗るなど）
3	野田市の博物館ボランティアと街を巡る
4	上野の国立科学博物館見学+有志で美術館見学



数回のフォローアップ講座を経て、自主的なグループ活動につながりました。

■ 講座例：地域のコミュニケーター養成講座

まずは、ワークショップ体験
この後、企画の立て方を学びました。



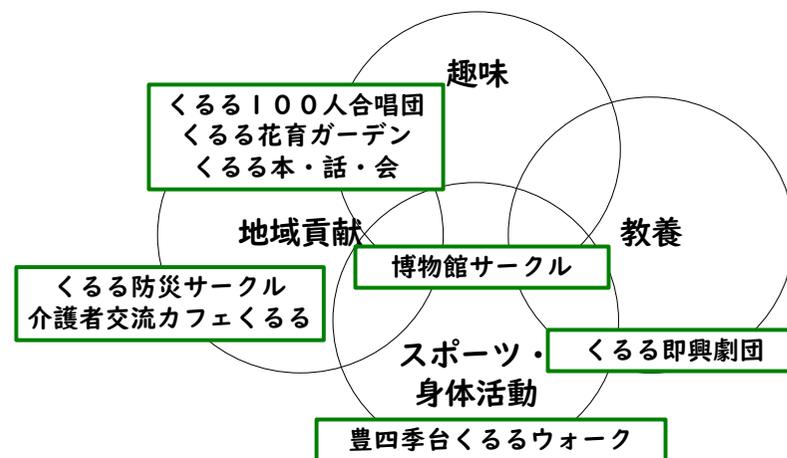
次にグループで企画について話し合い、検討を行いました。



最後に、参加者全員が一人ずつ自分が受講したい企画について発表しました。



■ 2年間で9つのグループが誕生



■ ポイント

- 学びのニーズはさまざま→企画内容をさまざまな角度から検討する＝楽しみ、健康づくり、社会貢献のバランスをとる。
- グループ化・仲間づくりへの**後押し**→講座が終わった後のことも想定する。
- 原則①：無理のない範囲で活動する。
- 原則②：ゆるやかな役割分担をする
(寛容の精神が大事、生涯学習の活動は自発的なもので、組織化が目的ではない)。

ポイント② 居場所から 地域のつながり を広げる

地域コミュニティに
働きかける方法②

地域にゆるやかに集ま
れる場をどうつくるの
か？

■ 『サードプレイス』 (R. オルデンバーク)



- 家でも職場でもない「第3の場所」
 - **近隣住民を団結させ、人々を融合させるとともに仕分ける役割を持ち、討議の場ともなり、お互いのためになることをする空間。**
- 「楽しさ」が人々を結びつける。
- 役割や義務から解放される中立的領域において「**会話**」を楽しめる場所。
- 例：コーヒーハウス、パブなど。

■ 『集まる場所が必要だ』 (E. クリネンバーク)



- 「**社会的インフラ**」としての居場所

- コミュニティ内外で市民の関与や交流を促す場のこと
- **継続的・反復的に相互作用が生じる場**
- 例：図書館、学校、遊び場、公園、運動場、スイミングプールといった公共施設、人々を公共の場に誘う緑地、教会や市民団体などの地域団体（人々が集まる固定的かつ物理的スペースがある場合）、マーケットや商業施設、カフェや理髪店、書店 など。

■ 気分転換できる「居場所」

2023年3月/Web調査/25～54歳対象
/男女各約5,500名が回答

順位	男性	順位	女性
1	車の中 39.7%	1	カフェ・喫茶店・ファミレス等 41.9%
2	公園などの屋外の公共空間 22.3%	2	ショッピングモール 36.8%
3	カフェ・喫茶店・ファミレス等 21.2%	3	車の中 26.7%
4	自然豊かな場 19.3%	4	友人や親族の家 21.9%
5	ショッピングモール 18.0%	5	公園などの屋外の公共空間 19.7%
6	居酒屋・バー 16.9%	6	エステ・サロン・美容院 15.8%
7	娯楽施設 16.3%	7	映画館 13.9%
8	書店 12.1%	8	書店 13.7%
9	友人や親族の家 11.9%	9	自然豊かな場 12.4%
10	映画館 11.4%	10	図書館などの公共施設 10.4%

(出典) 荻野亮吾 (2024) 「現役世代にとって気分転換できる場の持つ意味」
生協総研レポート101号『「人々のつながりの実態把握に関するアンケート調査」報告書』。

■ タタタハウス（東京都世田谷区尾山台商店街）

1階は洋品店・学校用具販売店を改装。カフェ、子どもたちやシニアの居場所、レンタルスペースとしても使うことができる。



2階は、東京都市大学の利用するおやまちリビングラボ



歩行者天国の時間
それぞれが思い思いに
過ごす

29

■ 公共図書館でも新たな動き

認定NPO法人カタリバが、図書館流通センターと協働して、図書館内に10代のための居場所をつくる実証実験を開始（2024年12月）。



未来は、つくれる
KATARIBA
近年あり方が模索される図書館の新たな活用方法。
10代のための居場所をつくる実証プロジェクトが始動

場所：東京都杉並区立図書館
(TRC運営館)
参加対象：13歳～18歳（中高生）
参加費：無料

コンセプト
「学習の合間に気軽に立ち寄り、
心身をリフレッシュできる場」
「同世代が集い、新たなつながり
が生まれる交流の拠点」

30 詳細は、<https://www.katariba.or.jp/news/2024/12/19/46691/>

■ 居場所に共通する特徴

「居場所」 = 他者と居合わせる場のことのできる場

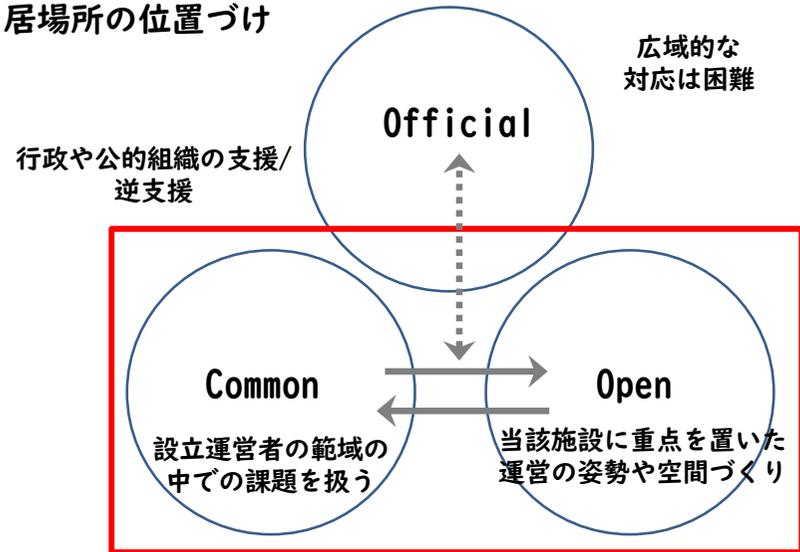
特徴① 専門家や行政による支援でなく、**地域の人々が中心**になって運営されている場所が多い。

特徴② **従来の制度・施設の枠組みでは十分に対応できない**課題に直面した人々が、その課題を乗り越えるために開く場所。

要介護者の増加、社会的孤立
高齢者や障がい者の生活支援
育児の悩み
退職後の地域での暮らし
不登校問題、子ども・若者の貧困

31

■ 居場所の位置づけ



(出典) 坂倉杏介「人と地域がつながる『場』」坂倉杏介・醍醐孝典・石井大一郎『コミュニティ・マネジメント：つながりを生み出す場、プロセス、組織』中央経済社、2020年、p.39.

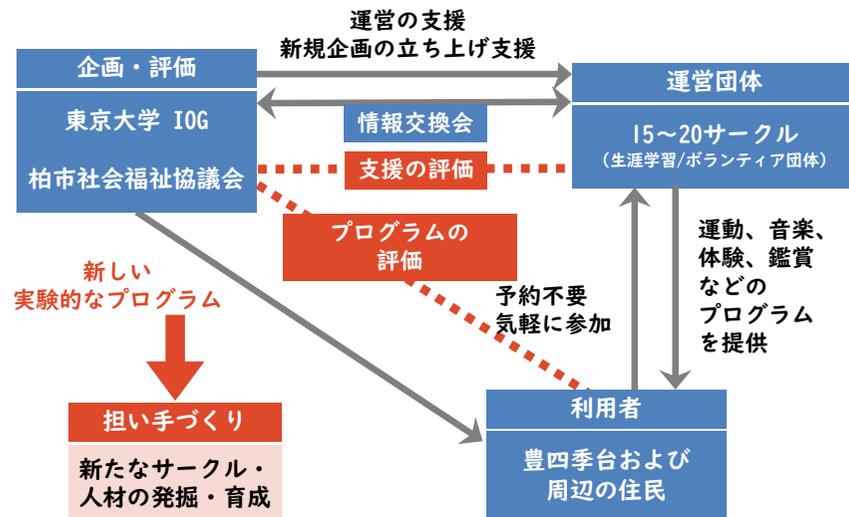
(実践例)

■ 千葉県柏市・地域活動館 (2018年～)

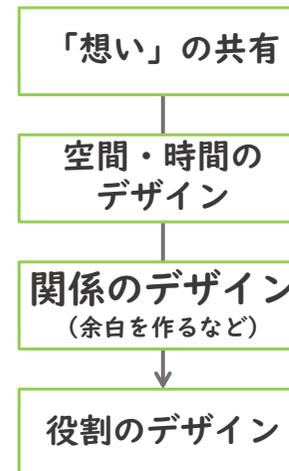
- 目的：千葉県柏市豊四季台団地で、公共施設のように誰かが管理してくれる場所ではなく、**住民中心に運営できる場所**をつくること。
- 方法：商店街の一区画を借り、希望者が運営に関われる「地域活動館」を開設。
- 運営体制：東京大学高齢社会総合研究機構が運営事務局(2019年度まで)、柏市社会福祉協議会(社協)が協力。
※2020年度以降、柏市社協が運営。
- このほか、プログラム実施に協力する団体が30程度。

(出典) 荻野亮吾・高瀬麻以「住民主体で進める居場所のデザイン」荻野亮吾・丹間康仁編『地域教育経営論—学び続けられる地域社会のデザイン』大学教育出版、174-186.

■ 柏市・地域活動館の運営体制 (2018～2020年)



■ 地域コミュニティにおける「居場所」のデザイン



支援する/されるの
関係を固定化させず
徐々に人々を巻き込んでいく戦略

居場所の中での
エンパワメント

なぜ、最初に話し合うのか？（想いの共有）



本格的な活動を始める前に、活動のイメージをすり合わせる

- ・自分たちにとって必要なのはどのような場だろうか？
- ・今、ある場ではなぜダメなのか？



話し合いの中で、自分たちに共通する思いが見つかる。

- ・新しい企画を立ち上げたい
- ・一緒に活動したい→積極的にサポート

36

「想い」の共有のポイント

関係者間で共有すべきこと

必要性と課題＝なぜ居場所をつくる活動が必要なのか、現状の課題は何か。

到達目標＝目指すべき方向性とゴールは。

資源＝必要な人材や連携、資源は何か。

※行政の支援の制度等を知ることでも大事。

活動内容＝どのような活動をイメージしているか。

「想い」の共有後にすべきこと

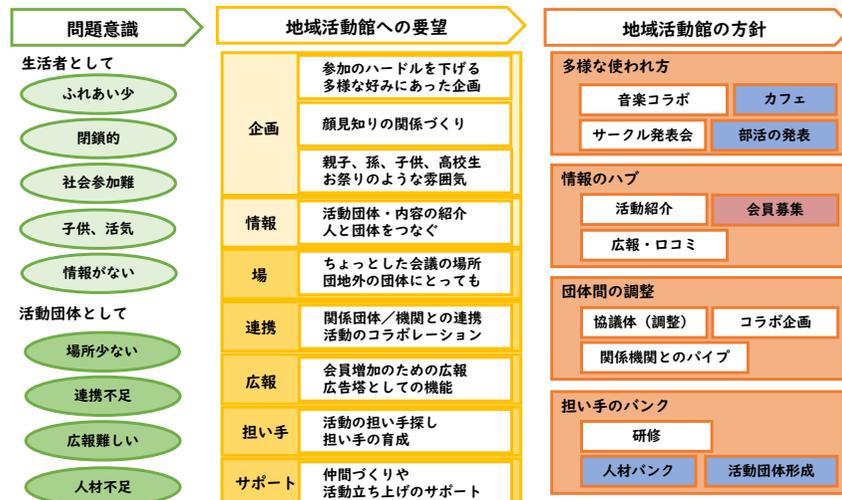
活動の具体的内容＝誰にきてほしいのか、どの程度の頻度で開くのか。

運営体制＝役割分担。運営のための経費等。

運営のためのルールづくり 等。

37

話し合いの結果を生かした方針づくり



「間」のデザインとは？

「ついでに利用するところにつくる」

ついでに利用できたり、人通りが多い場や、地域コミュニティの中心に場を設置する

「立ち寄りたくなる仕掛けをつくる」

幅広い年齢層や属性に対応できるような空間設計を行う

建物内部の活動が道行く人から見える

利用目的がなくても滞在できる

敷居がなく気軽に入れること

「機能を混ぜ合わせる」

様々な利用ができるよう、屋外スペースの利用や、様々な利用に対応できるように設計する

「家具で「居やすさ」を設える」「居やすい」雰囲気をつくる」

家具の配置や、空間づくりを工夫することで、安心して過ごせる居場所を作る

39

■ ルールづくり・空間のデザイン（「間」のデザイン）

居場所の運営で生じる問題

- ・ 「常連」の存在
- ・ 過剰な禁止ルール
- ・ 新しいことができない 等

全てのことを禁止するのではなく、**自由に活動できるように、利用者のニーズに合わせてルールを改変する姿勢を持つ。**

商店会の一角に位置し
気軽に入れる



イベントが開催されていない時には机や椅子を自分たちで片付ける

■ 思い思いに過ごせる場の工夫（「間」のデザイン）

創作・運動・音楽・カフェなど

様々なイベントを開催→特定の利用層に偏らないようにする。



壁面に棚を設置
サークルの作品の展示一ヶ月の予定を確認できる



■ 活動を徐々に広げる

10月のイベント

日	月	火	水	木	金	土
	1 100円 13:30-16:30 楽しむ習字	3	4 1人2席 まで無料 10:00-11:30 /W-ワンワン	お菓子の家作り	6 200円 13:00-15:00 スイーツデコ	
	8 体育の日	9	10 300円 9:30-11:30 ブロック折り紙	11	12 カフェ (無料) 13:00- 16:30 ヨガニサイズ	13 200円 9:30-11:30 ヨガニサイズ
14 100円 14:00-16:00 ドラムサークル	15 どちらも100円 10:00-12:00 ぶまネット 13:30-16:30 楽しむ習字		18 10:30-12:00 200円 楽しいヨガ	19 10:30-12:00 200円 楽しいヨガ	20 10:00-12:00 200円 子ども工作教室 14:00-16:00 100円 お楽しみ折り紙	
21	23 13:30-16:30 100円 ハワイアン 公開練習	24 300円 9:30-11:30 ブロック折り紙	27 9:30-11:30 200円 ヨガニサイズ	28 10:00-12:00 100円 子ども工作教室 14:00-16:00 100円 お楽しみ折り紙		
28	銭太鼓 どじょうすくい 踊り体験	31 14:00-16:00 翔の会				

現在の活動の状況

<https://kashiwa-shakyo.com/publics/index/220/>

12月のイベント

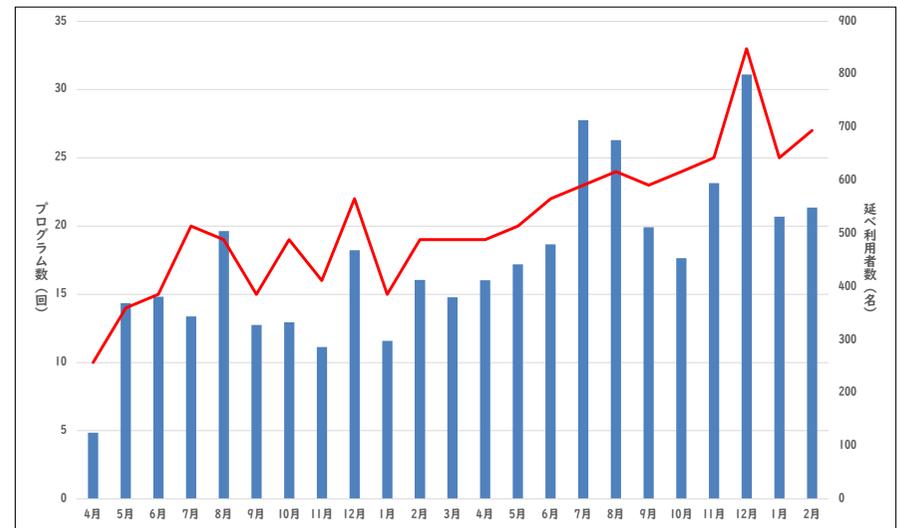
日	月	火	水	木	金	土
	2 100円 13:30-16:30 楽しむ習字	3 300円 13:00-15:30 カラオケ入門	4 200円 13:00-15:30 カラオケ入門	5 200円 10:00-11:30 /W-ワンワン	10:00-12:00 100円 スイーツデコ 13:00-15:00 100円 ヨガニサイズ	100-200円 10:00-12:00 100円 スイーツデコ 13:00-15:00 100円 ヨガニサイズ
8 10:30-12:00 100円 ハワイアン 公開練習	16 10:00-12:00 100円 ぶまネット	17 300円 13:00-15:30 カラオケ入門	18 200円 13:00-15:30 カラオケ入門	19 200円 10:30-12:00 楽しいヨガ	20 無料 13:30-15:30 ブロック折り紙	21 300円 10:00-12:00 100円 子ども工作教室 14:00-16:00 100円 お楽しみ折り紙
22 無料 10:00-19:30 みんなで楽しむ 一日中 音楽会	23 無料 10:00-11:30 クリスマス コンサート	24 100円 13:30-15:30 ふれあい喫茶	25 300円 13:30-15:30 ブロック折り紙	26 200円 10:00-12:00 13:30-15:30 カフェ	27 無料 13:00-16:00 カフェ	28 200円 10:00-12:00 ヨガニサイズ

↑ 2018年10月のチラシ

2019年12月のチラシ →

口コミで少しずつ活動を広げる

■ 地域活動館の利用状況（2018-2019年度）



■ それぞれが関われる場にする（役割のデザイン）

①情報交換会

- ・月に1度、顔を合わせて話し合いをする
- ・問題は当事者同士で話し合いして解決する



②できることは自分たちでする
く方を「お客さん」にしない。



③大学側が企画やふりかえりに関わる→想いを実現する

楽しむ習字
(長年温めていた活動の実現)

44

■ 「役割」のデザインのポイント

サービスやサポートを「提供する側」と「受ける側」に分けて考えない。

→居場所で関係を「固定化」させない工夫が必要 (cf. 公共施設のサービスとの違い)



具体的にどのような工夫を進めれば良いのか？ (例) まちの映画会。

45

■ 利用者101名に対する調査結果（2020年2月）

家族・友人のネットワーク (LSNS-6) →年齢間の差はなし

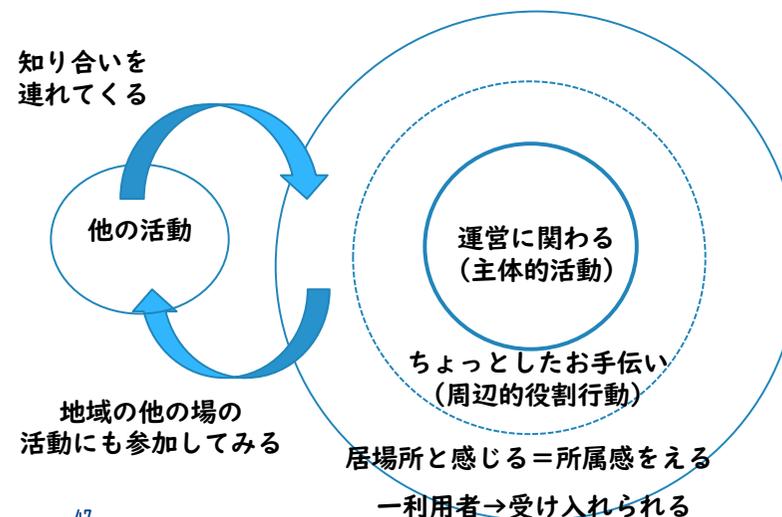
75歳以上（後期高齢者）＝活動館以外での社会参加の頻度低、活動館の利用回数高→活動範囲の狭まり

年齢	N	平均値	標準偏差
< 74	24	16.05	6.24
75-79	25	17.44	6.05
> 80	39	16.51	5.82

年齢	N	地域活動館外の社会参加の頻度		地域活動館の利用回数 (/月)	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
< 74	27	3.41	2.63	1.96	1.48
75-79	28	2.46	2.23	3.39	3.15
> 80	46	2.32	1.78	3.89	3.03

(出典) Kim D et al., A Community Space with Diverse Activities Support Older Adults' Social Participation and Sustain Social Connection, GSA 2020 Annual Scientific Meeting (Online), 2020年11月4日.

■ 場への関わりの変化をイメージする



47

■ その他の方法 ⇨ 地域のプラットフォームづくり

さまざまな関心を持つ個人や組織をつなげるのが、「プラットフォーム」

1. 参加者は、時間や規則に縛られず、自由に活動できる（cf. 「組織」との違い）。
2. 共通のコンセプトや目標が設定されている。
3. それぞれの活動を結びつけるコーディネーターの存在。

普段はそれぞれで活動しているが、集まる機会がある。

- イベントなどで関係者が集まり、お互いの活動を確認し、つながれる機会をもてる。
- 相互の活動を見て一緒に活動している意識をもてる。



48

午前中の まとめ

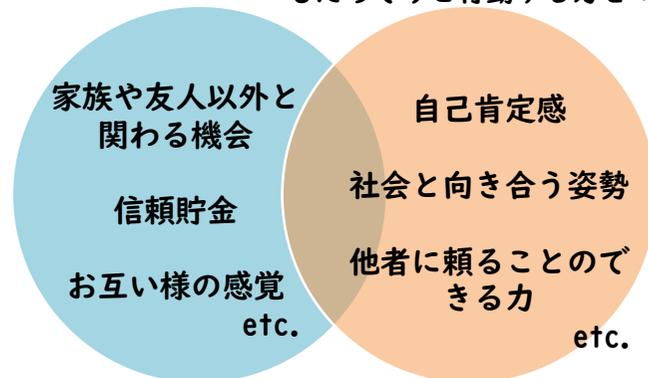
地域に「グループ」や「場」をつくることの意味とは？

「支援」とは何？

■ 生涯学習・社会教育で育まれる2つの資産

エンパワメント

自分と自分を取り巻く環境に変化をもたらそうと行動する力をつけること



ソーシャル・キャピタル

関わり合いのなかで育まれる資産
(つながり資産)

51

■ ソーシャル・キャピタルとは？

人と人のつながり（＝社会的ネットワーク）や、人と人とのあいだの関係性（＝共有された規範、信頼）が重要であるという考え方のこと。

社会関係に基づく地域の資産のこと。



R. D. Паттнам
(1941-)

ソーシャル・キャピタル構築戦略

- ① 適切な公共政策
- ② ネットワークの拡大
- ③ 共通のアイデンティティ
- ④ 「リサイクル」戦略
- ⑤ 人々が対話し議論するための共通の空間

52

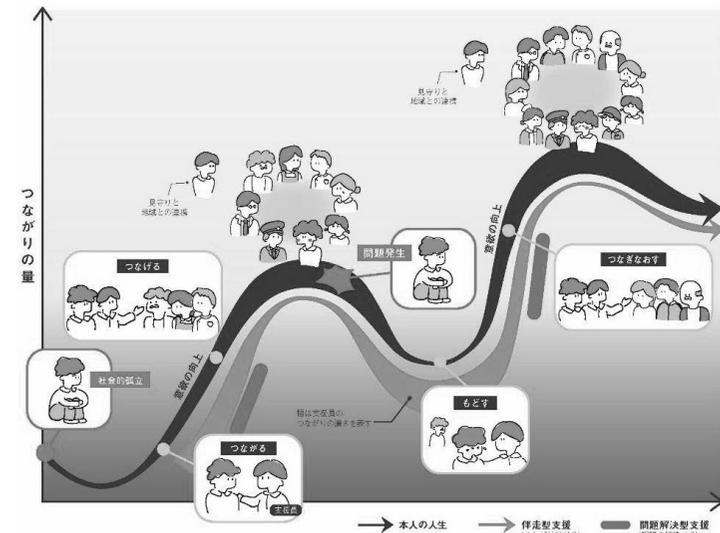
■ エンパワメントがなぜ大切か？

エンパワメントとは？

自分たちの持つ力や可能性を知り、自ら課題解決に向けて行動したり、環境をより良くしようとするこ
とや、そのための力を得たり力を発揮する過程。

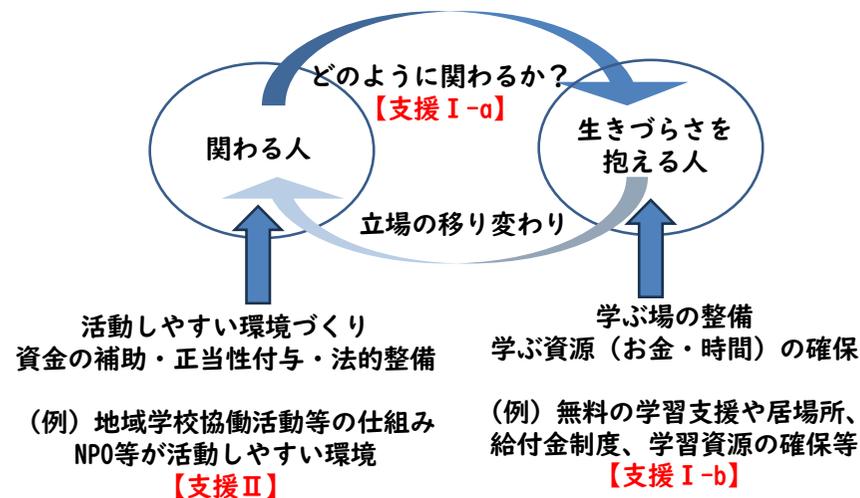
- 最初から、地域や社会を変えようとする意思や力をもつ人は少ない。
- 自分の動きが、小さなところから、地域や社会を変える力をもつことを実感できる機会が大切。
- 地域や社会への「入口」となる活動に巻き込み（巻き込まれ）つつ、徐々に地域/社会の一員としての意識が育まれる。

■ 「伴走型支援」の考え方



(出典) 奥田知志 (2021) 「伴走型支援の理念と価値」 奥田知志・原田正樹編『伴走型支援—新しい支援と社会のカたち』有斐閣, p.18の図を転載。

■ 支援の複層性 (行政/施設として何をする?)

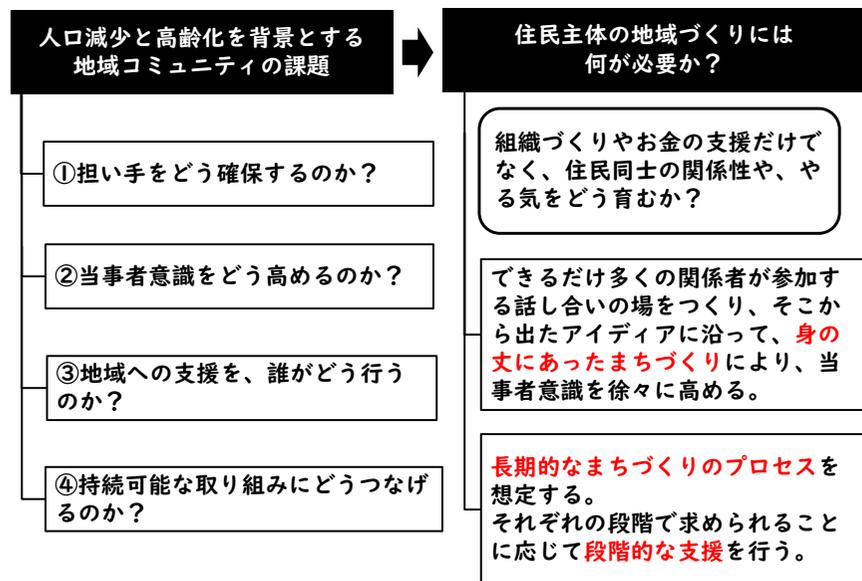


地域コミュニティに働きかける方法③

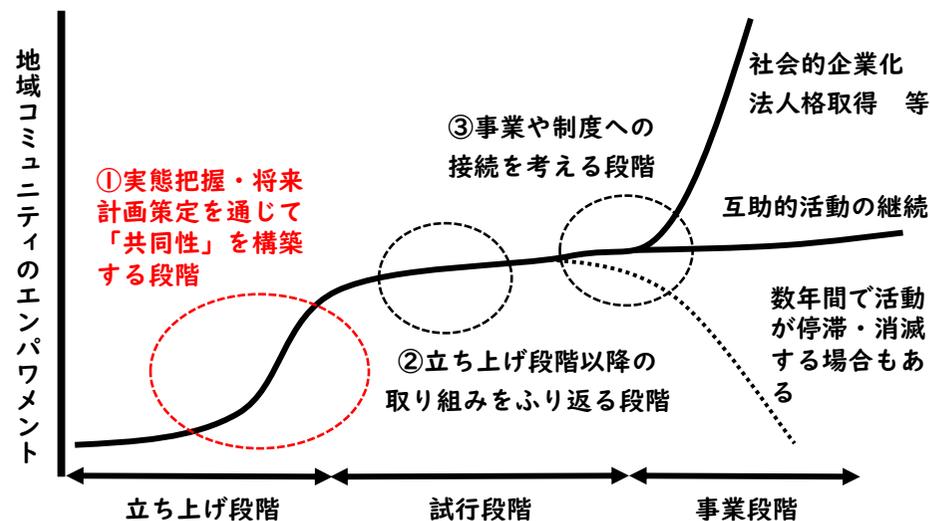
ポイント③
地域コミュニティをエンパワメントする

地域コミュニティに働きかけるプロセスを学ぶ
地域づくりを進めるためにどのような学習機会をつくり出せるか考える

■ 現代の地域コミュニティはどんな課題に直面しているのか？

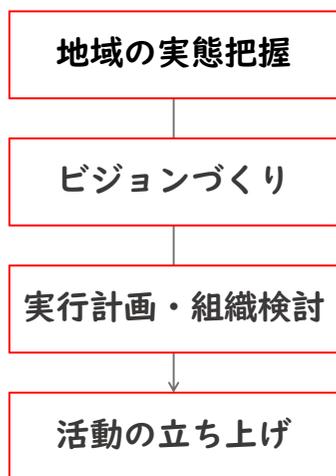


■ 地域コミュニティのエンパワメントのプロセス①



58

■ 地域コミュニティにおける新たな活動の立ち上げ



「対話」しながら
自分たちの足元と
地域の未来を
見つめ直す

住民自身の活動への
モチベーションを
徐々に高める

(出典) 荻野亮吾・似内遼一・菅原育子 (2024) 『地域づくりの進め方・見直し方』 p.3.

① 地域の実態（課題）把握

- 住環境点検・コミュニティ・カルテの作成
- 地域やコミュニティの資源と課題を知るための方法。
- 地域に住む方と一緒に地域を巡りながら、みんなで集まれる場所、通行に危険な場所などの点検を進める。



写真：鎌倉市大平山丸山地区
点検の様子・点検の結果

60

■ 「ないものねだり」の限界

ないものねだり = 自分の街に「ない」ものを探す考え方 → 「ないものねだり」
(例) スタバがない、USJがない、イオンがない・・・。

確かにあると便利なもの、楽しいものばかりだが、
「ない」ものを探しても幸せになれない。

「ない」ものは人口規模や経済水準で決まっていることが多い。自分たちで努力してもすぐに状況は変えられない。→ 「無力感」

代わりに、私たちにできることはあるだろうか？

61

■ 基本となる「地元学」の視点

「ないものねだり」でなく、地域の「**あるもの探し**」をする。

自分が現在住んでいるまち、あるいは長く住んでいたまちを思い浮かべる。

その中で、①から⑤についてお互いに紹介をする。

- ① おいしかった食べ物
- ② まちで好きな場所
- ③ 嬉しかったこと
- ④ 大事にしていること
- ⑤ あなたにとってのまちを一言で表現

* 地元学の詳細は、吉本哲郎『地元学をはじめよう』岩波書店、2008年をご覧ください。

62

■ 実践例（公民館の歴史・文化・自然を知る講座）

（事例）那覇市繁多川公民館の「繁多川見聞録」

- 高齢者を話者として、昔のことの聞き取りを行う。
- 最初は「**どこの地域も同じだよ**」「**私から聞いても勉強になることはないよ**」。
- 昔の行事、食、戦争のことを聞く中で、「豆腐がとても美味しかった」ことを思い出す。
- 在来大豆を探し、豆腐づくりをする「**あたいぐわープロジェクト**」へ。**地域の価値の再発見**。
- 聞き取りの中で見えてきた経験豊富な住民を「**すぐりむん**」として認定する取り組みに発展。

写真：繁多川公民館「あたいぐわープロジェクト」
<https://cs-wakasa.com/program/archives/2011>



63

■ 実践例（地域の課題をみつける）

（事例）千葉県君津市周南公民館

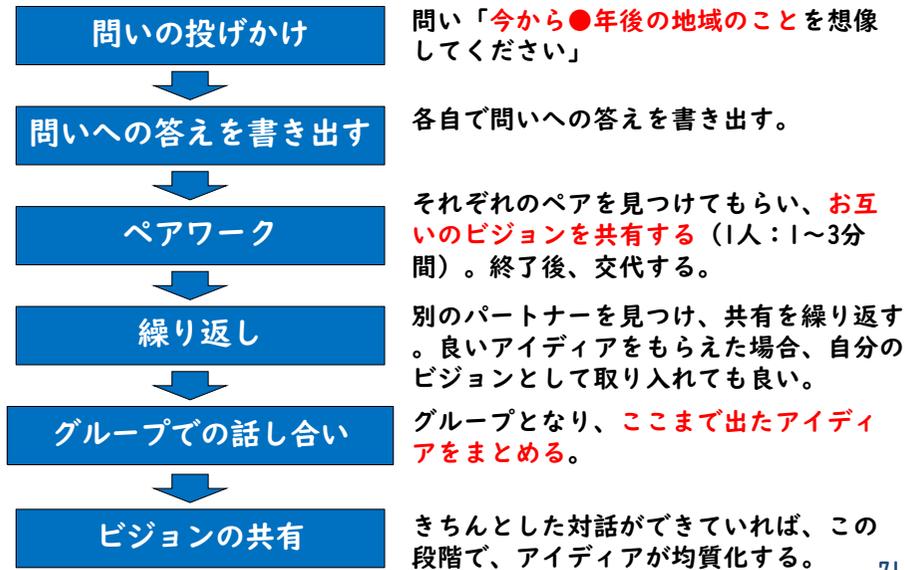
- 認知症と思われる方の来館、家族からの公民館サークルへの問い合わせが相次ぐ。
- 地域では高齢者の徘徊による行方不明も複数回発生。
- 認知症予防の健康講座や講演会などを経て、問題への理解を深める。
- 介護する家族や地域役員の協力を得て、「**すなみほっとサロン**」開設。



写真：「すなみほっとサロン」
<https://sunamihotsalon.hatenablog.com>

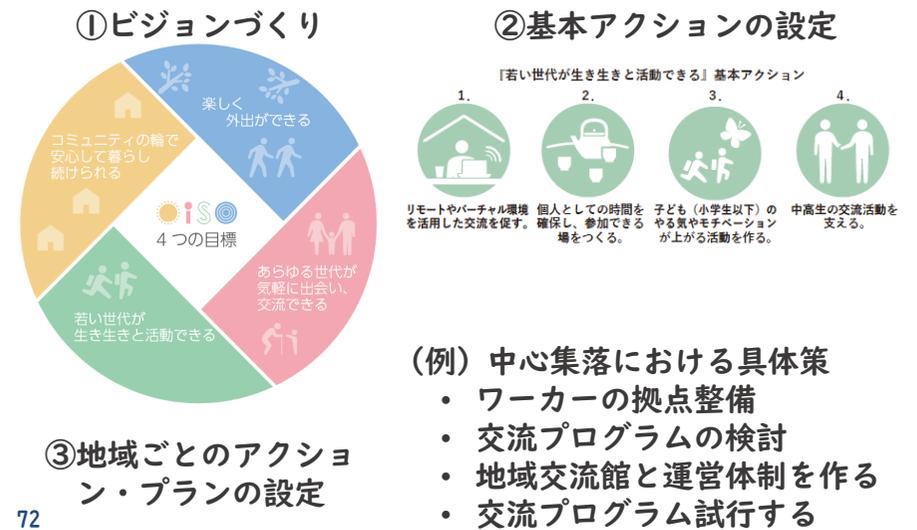
64

■ ビジョンングの方法



■ 実践例（コミュニティセンターのプロジェクト）

（事例）近江八幡市老蘇学区の「安寧のまちづくりプロジェクト」



■ ③実行計画・組織の検討



- 目標に賛同する仲間を増やす。
- 試験的なイベントを実施。
- 参加してくれた方にも呼びかけ、徐々に理解者を増やす。



写真：柏市布施新町みらいプロジェクト地域の「あったらいいな」のお試し会

■ ④活動の立ち上げ

- **リーン・スタートアップの考え方**
- 小さな活動（成功）を積み重ね、参加者の反応を見ながら、取り組みの方法を見定めていく。
- 参加者が面白い、楽しいと思える活動を大切にする。



写真：柏市布施新町みらいプロジェクト子どもたちとシニアが交流できる機会を増やす。

長野県飯田市⇨「りんご並木」×「IIDA WAVE」
＝「まちかど芸術祭」



「あるもの」
×
「あるもの」

実践例（鎌倉市大平山丸山町内会の活動）

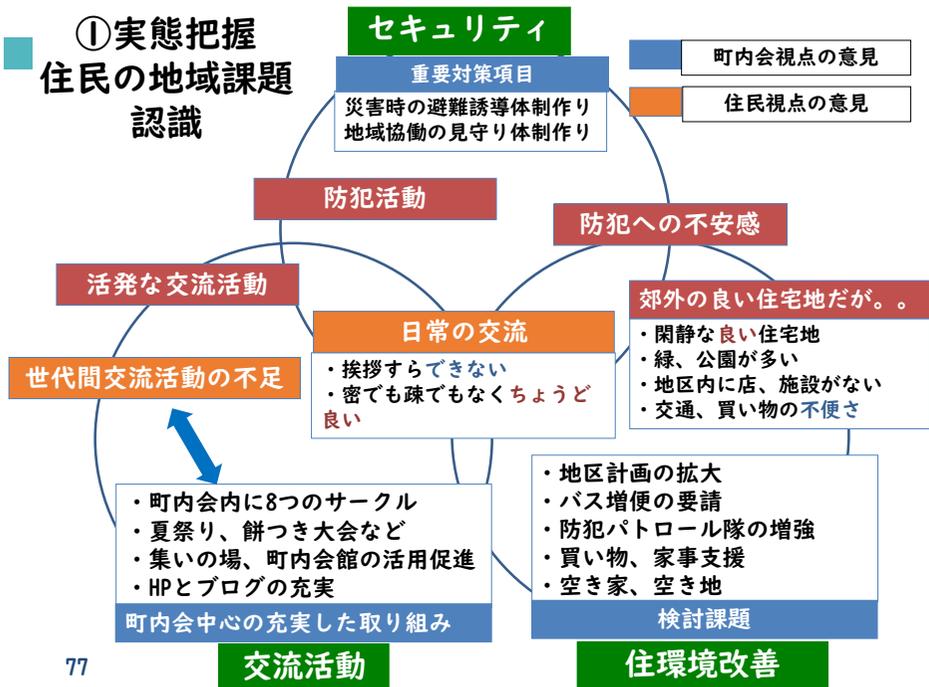
2017年度
5回のワークショップを通じた地域課題の把握・分析と
アクション・プランの作成

2018年度
分科会設立（地域支えあい、移動支援、子育て支援）
ニーズ把握のための質問紙調査の設計と配布

2019年度
3つの分科会での質問紙調査の分析
分析結果に基づく、今後の活動計画の検討

2020年度～
新型コロナの影響を受けた現状分析と新活動指針の策定

①実態把握
住民の地域課題
認識



①実態把握 住環境点検の結果の一部



■ 地域での話し合い（ワークショップ）の様子



話し合いの場をつくる際には、
 ・大学
 ・行政のまちづくり関係部局
 ・社会福祉協議会
 なども協力。



2017年のワークショップの様子

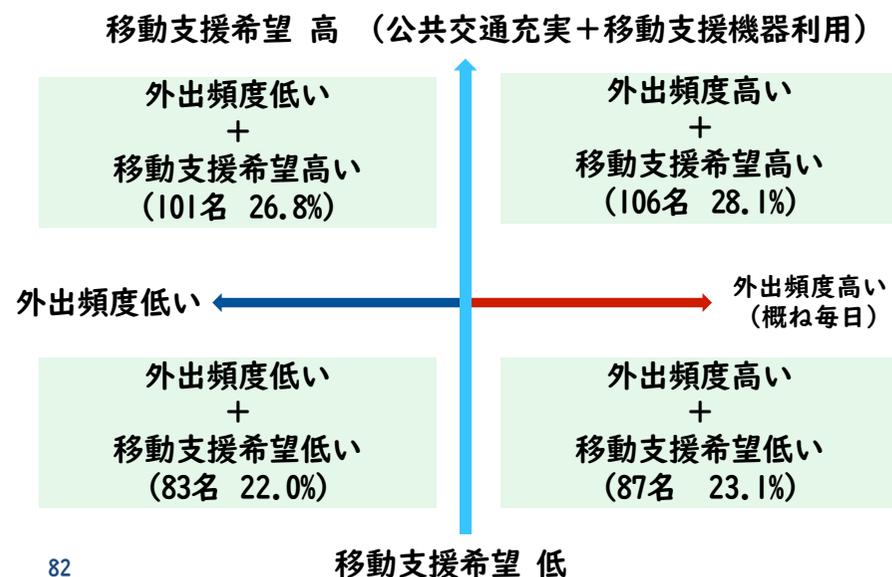
■ ②ビジョンづくり 2030年の望ましいビジョン

- 2030年の望ましい**自身の**ビジョン
 - ・健康で自立した生活
 - ・家族・地域・友人とのつながりを大事に
 - ・趣味・就労・社会参加
 - ・今の便利な生活を維持
- 2030年の望ましい**街の**ビジョン
 - ・地域の魅力を高める
 - ・子供・若者がいる街
 - ・近所づきあいや助け合いができる街
 - ・移動しやすい街
 - ・地区内で買い物ができる街
 - ・安全・安心な街

■ ③実行組織づくり=3つの分科会の設立

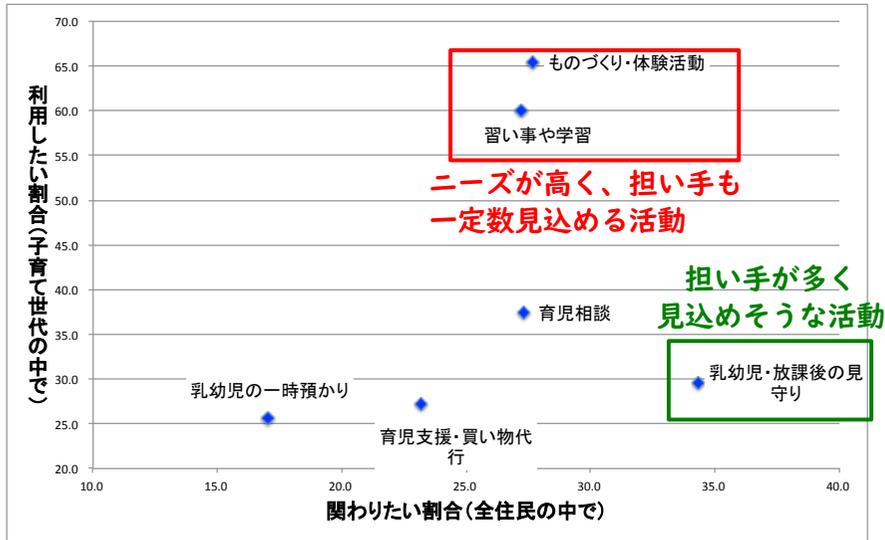
- 地域支え合い分科会：高齢世帯が増える中で、地域社会としての**自発的な支え合い活動の強化**を目指す
 - 移動支援分科会：自家用車の代替手段の確保など、主に**高齢者の移動支援**を目指す。
 - 子育て支援分科会：**子育て世代の持つ悩み、地域社会に何を期待するかを把握**し、地域社会で解決できるのか、行政などへの働きかけを要するのか、整理する。
- 2018年度に、3分科会（地域支えあい、移動支援、子育て支援）主導で、地域の方々のニーズを把握し、今後の活動計画の立案を行うため、**住民アンケート調査**を実施（724世帯/1204名から回収）。

■ 分科会による実態把握・ニーズ把握①



分科会による実態把握・ニーズ把握②

子育て世代のニーズの把握と実現可能な活動を探る



ニーズが高く、担い手も一定数見込める活動

担い手が多く見込めそうな活動

④各分科会の活動風景

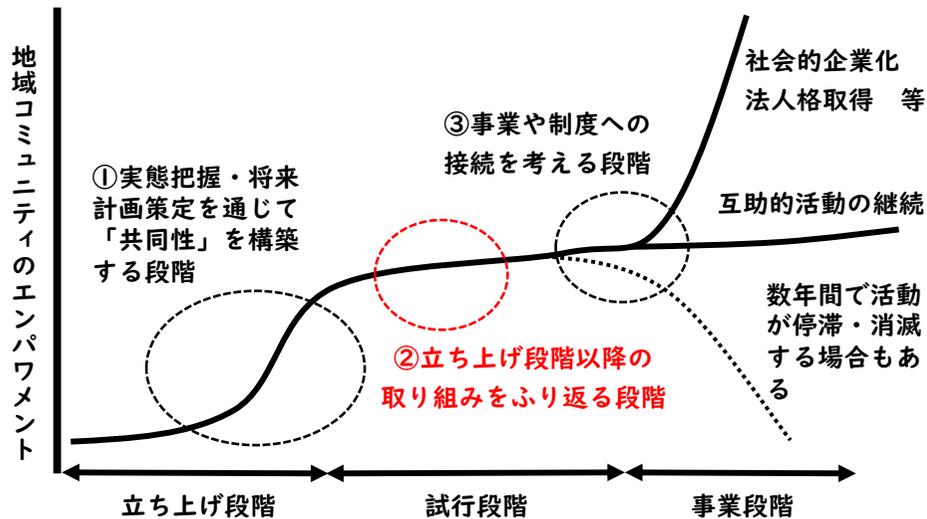


移動支援分科会を中心とした町内の環境点検を実施（電動シルバーカーを用いた実験）



子育て支援分科会によるパソコン教室・プログラミング教室

地域コミュニティのエンパワメントのプロセス②

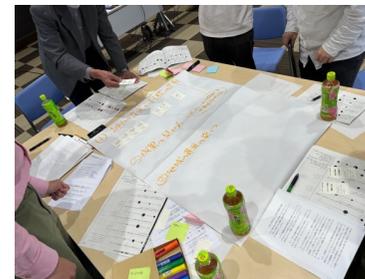


実践例（活動立ち上げ後の話し合い①）

活動の成果を見つめ直し、活動のプロセスにおいて改善できる点を見つけ出すための話し合い（ワークショップ）を行う



2022年7月
ワークショップを開催
（千葉県柏市布施新町）



今後のことを話し合うためにカードなどを用いる

話し合いの手順

段階	時期	目的	内容
① 事前の質問紙調査	ワークショップ開催の約1ヶ月前	日常的な活動内容や活動過程についてふり返りを行うこと。	大きく分けて5項目からなる質問紙調査を参加者に実施する。
② 調査の回答結果の確認	ワークショップの前半(30分程度)	自身と他の参加者の取り組み意識の違いを明確にすること。	研究者が集計を行い、項目ごとに、自身の回答と他の参加者の回答とを比較する。
③ 大項目ごとのふり返り	ワークショップ中盤(1時間程度)	5つの項目ごとに共同でふり返りを行い、活動の改善点を共有すること。	大きな差異のある項目や評価が低い項目を中心に原因を考え、対応策を議論する。
④ 今後の活動目標の話し合い	ワークショップ後半(30分程度)	今後の活動の進め方について、アイデアを出し合い、活動方針を共有すること。	活動方針に関するアイデアカードを数枚記入し、グループの中で共有を行う。

出典：荻野（2023:23）の表1を転載。

実践例（活動立ち上げ後の話し合い②）

評価（ふり返り）の項目

項目	とても	やや	あまり	あてはまらない
組織の民主的な運営				
現在進めている取り組みについて、みんなが話し合って進めることができるか、各自で以下の項目にチェックをしよう。				
この取り組みでは・・・				
新しい参加者を積極的に受け入れるようしている				
年齢や性別などをみたときに、多様な人が関わっている				
活動計画や目標、予算案などをみんなで決めている				
活動の目的をみんなで共有している				
意見や方針が異なるときは互いに聞き合おうとする				
外部の専門家や行政の支援を受けつつ、自分たちの力で運営できている				
地域が抱える課題への向きあひ方				
地域が抱える課題について向き合うことができているか、各自で以下の項目にチェックをしよう。				
この取り組みに関わるメンバーは・・・				
地域にどんな課題があるかをよく理解している				
地域の課題について話し合ったり、教え合ったりしている				
自分たちの活動に役立ちそうなことを開いたり、勉強したりしている				
自分たちの活動を発展させるために、付き合いを広げようとしている				

事前にアンケートをとり、ふり返りの素材とする。



評価が分かれた項目
全員の評価が低い項目などに注目して、ふり返る。

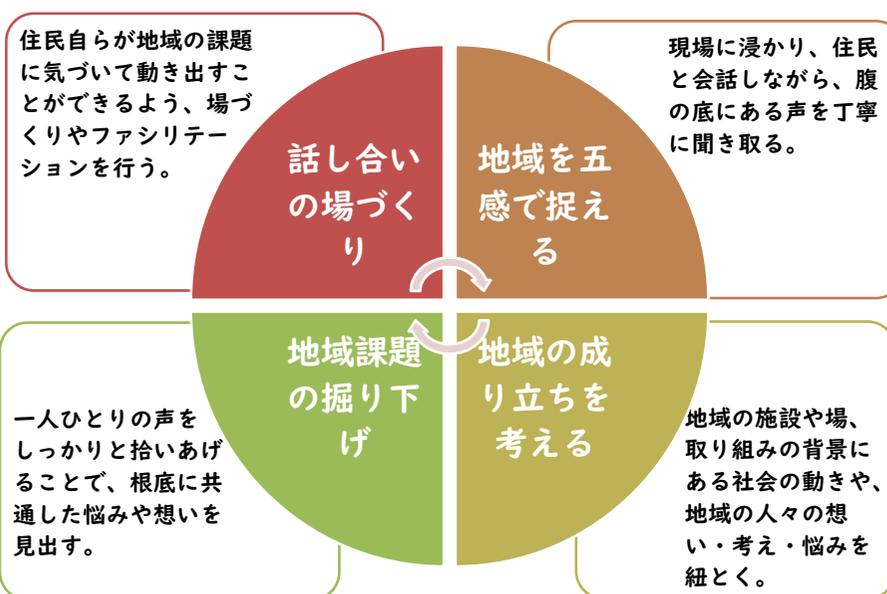
実践例（柏市布施新町での評価結果）

- **活動計画や予算案**について、これまでより多くのメンバーで話しあう機会をつくる
- **メンバーの多様性**を増やすこと、特に若い世代を活動に引き込む
- 自分たちの活動内容を、活動に関わっていない**布施新町住民**にもっと知ってもらう。



この後、活動の成果を広めるためのイベントや、子育て世代を巻き込むワークショップ等を実施（2023年8月）

社会教育関係職員としてのサイクル



社会教育と地域づくりのポイント

地域コミュニティに「コト」をどのように起こすのか？

地域の課題×地域の人や場×自らの関心→一つの「コト」（取り組み）
多様な人の巻き込み→一人の視点、一つの属性で見えないことが多い。

住民の主体性（当事者性）をどう引き出すか？

まず、「入口」は軽い活動から始めてみる
徐々に活動の中で担う役割や、企画に関わる機会を増やす
小さな手応えが、エンパワメントにつながる

支援者（関わる人）の役割とは？

地域の社会関係の「潤滑油」、活動の「黒子」、地域の「土壌を耕す」
自ら表に出過ぎない、対話のための場・座組みをつくる、日頃から地域の情報を集める（頭の中に地域の地図をつくる）

地域活動の継続に向けて→発想を変える

課題の「解決」が終着点ではない
活動や組織の持続を目的にしない、困ったら活動の原点に立ち返る

参考文献

- ① 岡幸江・内田光俊・荻野亮吾ほか『ポストコロナの公民館—22の問いから考える』大学教育出版、2025年2月。
- ② 荻野亮吾『地域社会のつくり方—社会関係資本の醸成に向けた教育学からのアプローチ』勁草書房、2022年1月。
- ③ 荻野亮吾「住民主体の地域づくりに向けた学習をどのように進めていくか？：コミュニティ・エンパワメントの方法と評価」『社会教育』927号、2023年9月、18-24。
- ④ 荻野亮吾「地域における社会関係資本の醸成」『αシノドス』328号、2024年10月。
- ⑤ 荻野亮吾・近藤牧子・丹間康仁編『地域学習支援論—学び合える社会関係のデザイン』大学教育出版、2025年3月。
- ⑥ 荻野亮吾・丹間康仁編『地域教育経営論—学び続けられる地域社会のデザイン』大学教育出版、2022年10月。
- ⑦ 荻野亮吾・似内遼一・菅原育子『地域づくりの進め方・見直し方—一歩ずつ地域づくりを進めるためのガイドブック』日本女子大学荻野研究室、2024年3月。
- ⑧ 似内遼一「計画主導のまちづくり活動の推進力としてのエンパワメント評価の可能性」『社会教育』927号、2023年9月。
- ⑨ 菅原育子「住民主体の地域活動を支える組織およびコミュニティレベルのエンパワメントとその評価」『社会教育』927号、2023年9月。